

未来を担う技術の芽 ～高校生が溶接競技会で魅せた成果と日々の取組～

高知県立須崎総合高等学校 機械系学科

1. はじめに：授業の実習から広がる溶接の奥深さと挑戦の歩み

青い火花が飛び散り、強烈な光と熱が包み込む実習室。須崎総合高等学校機械系学科の生徒たちが技術の向上に励む原点は、日々の授業や実習の場にある。

ものづくりの基礎を学ぶなかで出会う溶接実習において、生徒たちは数千度の熱で金属を溶かし、力強く接合する溶接技術の繊細さと奥深さに魅了されていく。トーチを保持する手元の角度や溶接速度、アーク放電のコントロール一つで仕上がりが大きく変化する面白さは、生徒たちのものづくりへの探究心に火をつけた。

「もっと技術を極めたい」「自分の限界に挑戦したい」という高い意欲と向上心を持った生徒たちは、授業の枠を超えて各種溶接競技会への挑戦を開始した。熱い情熱と地道な練習の積み重ねが、やがて四国地区大会での歴史的快挙という輝かしい成果へと開花していくことになった。

2. 四国地区高校生溶接技術競技会 <3 年間実績>

本校の機械系学科の生徒たちは四国地区高校生溶接技術競技会において、令和 6 年度から 3 年連続で四国一に輝くという素晴らしい実績を残してきた。名実ともに四国トップレベルの実力を証明した各年度の活躍は以下のとおりである。

●令和 6 年度（第 13 回大会）

：被覆アーク溶接部門で高知県選抜初の団体優勝及び個人 2 位入賞

令和 6 年 7 月 24 日（水）に開催された「第 13 回四国地区高校生溶接技術競技会」（被覆アーク溶接部門）に、造船専攻 3 年の矢野智洋選手、機械専攻 3 年の田村一眞選手、藤本悠人選手の 3 名が高知県選抜メンバーとして出場した。

平成 24 年度から始まった本大会において、高知県選抜チームが団体優勝（四国一）を果たしたのは大会史上初となる歴史的な快挙であった。また、個人 2 位（優秀賞）に入賞した矢野智洋選手は、四国地区の選抜メンバーとして「第 8 回全国選抜高校生溶接技術競技会」に出場し、全国 8 位の成績を収めた。



●令和 7 年度（第 14 回大会）

：被覆アーク溶接部門団体 2 連覇及び個人 3 位入賞

前年の勢いそのままに、令和 7 年 7 月 23 日（水）に開催された「第 14 回四国地区高校生溶接技術競技会」（被覆アーク溶接部門）でも本校生徒が大躍進を遂げた。

この大会には、造船専攻 3 年武智斗我選手、河野新矢選手と、機械専攻 3 年の長田大和選手の 3 名が出場した。それぞれの専門分野で磨いた確かな腕前と高度なチームワークを発揮し、高知県選抜として大会初となる「団体優勝 2 連覇」を達成した。また、個人 3 位(優良賞)に入賞した長田大和選手は四国地区の選抜メンバーとして「第 9 回全国選抜高校生溶接技術競技会」に出場し活躍した。



●令和 8 年度(第 15 回大会)

:CO2 半自動溶接部門で高知県選抜初の団体優勝及び被覆アーク溶接部門個人 2 位入賞

令和 8 年 7 月 22 日(水)に愛媛県新居浜市で開催された「第 15 回四国地区高校生溶接技術競技会」においては、本校は従来の「被覆アーク溶接部門」に加え、「CO2 半自動溶接部門」でもさらなる偉業を成し遂げた。

CO2 半自動溶接部門に出場した機械専攻 3 年野村空岐選手、山中颯夏選手、吉永知史選手の 3 名は、高い指導に裏打ちされた技術で見事なチームワークを見せ、高知県選抜初となる念願の団体優勝を獲得。また、被覆アーク溶接部門に出場した川村楓雅選手も個人 2 位(優秀賞)の成績を収め「第 10 回全国選抜高校生溶接技術競技会 in 新居浜」に四国地区選抜として出場し、全国から集まった強豪たちと互角に渡り合い、大いに活躍した。



3 年間の大会成績サマリー

年度	大会名・参加部門	団体成績	個人成績・全国大会
令和 6 年度	第 13 回四国地区高校生溶接技術競技会 (被覆アーク溶接の部/CO2 半自動溶接部門)	優勝(被覆) (高知県選抜初)	個人 2 位(被覆):矢野 智洋(全国選抜出場) WELDRAM 賞(被覆):田村一真
令和 7 年度	第 14 回四国地区高校生溶接技術競技会 (被覆アーク溶接の部/CO2 半自動溶接部門)	優勝(被覆) (団体 2 連覇) KOBELCO 賞(CO2)	個人 3 位(被覆):長田 大和(全国選抜出場) WELDRAM 賞(被覆):武智斗我
令和 8 年度	第 15 回四国地区高校生溶接技術競技会 (被覆アーク溶接の部/CO2 半自動溶接部門)	優勝(CO2) (高知県選抜初)	個人 2 位(被覆):川村 楓雅(全国選抜出場)

3. 技術を磨く日々の取組と受け継がれる伝統

3 年連続で四国一という偉業を成し遂げることができた背景には、厳しい校内選考や県大会での切磋琢磨、そして進路実現に向けた努力と部活動を両立させる充実した教育環境がある。

(1) 校内選考・高知県高等学校技術競技大会から始まる切磋琢磨

四国大会や全国大会への道のりは、校内の限られた出場枠をかける熱い選考から始まる。

生徒たちはまず、県大会である「高知県高等学校技術競技大会」への出場権を目指して校内選考に挑んでいる。造船専攻や機械専攻、機械制御専攻といった各専門コースで培った実力を存分に発揮し、県大会でも本校生徒が上位の成果を収めてきた。

伝統の被覆アーク溶接にとどまらず、CO2 半自動溶接においても、着実にステップアップしていく教育体制が、生徒たちの実力を四国レベル、全国レベルへと引き上げていく。

(2) 進学・就職補習や部活動との両立と先輩から後輩への技術継承

競技会で目覚ましい成果を出した生徒たちは、特別な環境だけに頼ったわけではない。2 年以上にわたり、進路補習（進学・就職補習）や日々の部活動と両立させながら、早朝や放課後の時間を活用して熱心に練習に励んできた。

限られた時間の中で集中して課題に向き合い、互いに仕上がり进行评估し合って技術を高め合う姿勢は、校内の他の生徒たちにとっても大きな刺激となり手本となっている。

さらに、上位大会を経験した先輩たちが、トーチの保持角度や熱による金属の歪みを防ぐ微調整、本番での精神コントロールといったコツを後輩へ惜しみなく伝える「技術継承」の伝統が根付いている。この強固な絆と伝統こそが、須崎総合高校が誇る最大の強みである。

4. 生徒たちの生の声と将来のものづくりへの抱負

日々火花と向き合い、幾度もの試行錯誤を乗り越えてきた生徒たちは、技術の習得にとどまらない大きな精神的成長と確固たる自信を得ている。

(1) 試行錯誤が生んだ自信と達成感

競技会を終えた生徒たちの表情には、やり遂げた大きな達成感が満ちあふれている。2026 年 10 月 1 日付の高知新聞（高新ニュース）などでも報じられたように、夏の過酷な練習や課題克服のプロセスを経て、生徒たちは「自分のやり方を考え、練習を重ねて成果が出た」「他校に通用するという自信がついた」などの実感を語っている。

一通り教えられた通りに作業するだけでなく、「どうすればより美しく強固な溶接ができるのか」を自ら探術・考案し、練習を反復したことで得られた成果。この経験は、生徒たちに「他校のライバルや社会に通用する技術がある」という大きな自信と手応えをもたらしている。

5. 将来のものづくり（産業・進路）に向けた決意

溶接競技会への挑戦を通じて高度な実技力と粘り強い精神力を養った生徒たちは、それぞれの将来に向けて力強い抱負を掲げている。

生徒たちの将来に向けた抱負

(1) 進路先での即戦力としての活躍

高校生活での厳しい練習と競技会で培った高度な溶接技術・課題解決能力を、就職先や進学先でも存分に活かしていきたい。

(2) 地域や日本のものづくり産業への貢献

競技会で掴んだ自信を胸に、将来は製造業や建設業、造船業などの現場で品質を支えるプロフェッショナルとして社会に貢献していきたい。

(3) 技術者としての向上心と探究心の継続

「自ら課題を見つけ、考えて練習を重ねる」という競技会で学んだ姿勢を生涯持ち続け、技術の研鑽に努めていきたい。

6. おわりに：未来をひらく須崎総合高校の技術魂

3年連続で四国一という快挙を達成した本校の輝かしい実績は、生徒一人ひとりがものづくりに対して抱く熱い情熱と、進路補習や部活動と両立しながら地道な努力を積み重ねてきた努力の結実である。

本校は、高知県における実践的な産業技術教育の拠点校として、生徒たちの意欲と可能性を最大限に引き出す環境を整え、これからも地域や日本のものづくり産業を支える人材育成を強力に推進していきたい。

先輩から後輩へと確実に受け継がれていく「須崎総合の技術魂」。未来の産業界を担う技術者を目指して挑戦を続ける生徒たち、そしてこれから本校で技術者の第一歩を踏み出す中学生の皆さんを、これからも地域・保護者の皆様とともに温かく見守り、応援していただければ幸いである。